

た社會を教はんとするならば須く強い人格の光りを以て彼等に接せなければならぬ、自己自身に信仰の洗禮を實踐して其の浸しみの中から出た宗教家としての誇張を以つて凡てを指導すべきではなからうか、私は斯うした思想に悶へ苦策して止まない。

## 聖誕七百年にちなみて

津 田 春 曉

吾は身延に登りて祖山學院に入學し負笈する事日向淺く教義にうとし。されど此の短日月間に於て安心立命はいすれにあるかを自覺し得たり、そは即ち本化上行たる末法の大導師宗祖大聖人に信の一字を捧げ奉ると云ふ事なり。

そはそも何故自覺し得たるか、吾が病氣の悲しきが爲か非ず、祈願の爲か非ず、斯かる目前の小利には非ざるなり。宗祖大聖人の一生を推想し感激したるなり。殊に四ヶ度の大難伊東の流罪に溺

れ給はず龍之口に切られ給はず佐渡雪中の苦難にも亦飢へ給はざりし事は暫く措き、實に大聖人の御性格精神の偉大にして形容す可からざるに感ずるなり。偉大なる哉大聖人、劔の下も尚ほ寂光の都彼の伊豆の海の波間に漂ひ給ひ佐渡の國の雪中千鳥の聲に御夢を覺まさせ給ふ御身におはし乍らも「我此土安穩天人常充滿」「天長地久國土安穩」と祈らせ給ふを想ふ時誰か袂を絞らざる常に法華經の大義を唱へ滿天下の衆生を救はんとの大願を起し此の大願の前には「法華經の爲めに此の臭き頭を刎ねられんは砂に黄金を換へ糞に米を代ふるなり」と喝破し眼中權勢もなく威武もなき眞に高天淵地獨立獨歩の大豪傑が人情に厚く恩誼に深く其の情時としては禽獸の末に迄も及びし事は實に感涙に堪へざるなり吾が信の一字を自覺し得たるは此處にあり。此の信の一字を自覺し得實の信仰を捧げばいつしか安心立命の境に立入るを得るなり。

嗚呼太平洋上に洗はる、一島國に大聖人の御誕

生ましませしは我帝國は云はずもかな世界全人類  
に取りて何等の幸ぞや。さらば吾々青年は聖誕七  
百年を朴し決然として立ち意志を堅固に持ち荒海  
と一大苦闘を試み聖願たる「一天四海皆歸妙法」  
の實を擧げられん事を!!

## 身延の夕暮

高崎 一 二

町から山、山から谷、溪から町、霧で一つばい  
である下の方から馬車の笛の音が淋しく聞えてく  
る。霧の中からふひに馬車馬の頭が浮かんだかと  
思ふと又消えて車の響が残つた霧から霧へ人馬が  
往來してゐる。

身延驛の方から汽笛が立ちこもる霧にしめつて  
悲しく聞へてくる。

邊りはまるで灰色の海に漬かつて仕舞い土産館  
のイルミネーションは薄い雲につままれてゐる。  
暮合の鐘は淋しく餘韻をひいて峰へ〜と廻ぐ

つて行く弱々しく吹く風は恰も天女のかなでる微  
妙の音樂の如く單調な自分の腦中に響いた。  
霧は段々と富士川の方に流れて行く、半弦の月  
は鷹取の山上にかゝり立ちこめる霧の間に間に淡  
い光を放つてゐる、四顧寂莫たり唱題修行の法鼓  
の音静けさを破つて聞えてくる手に持つ灯燈に火  
を點けて淋しい山道を余は歸路についた。

## 偶感

井無田壽水

舉世滔々與道違  
風教墜地不知非  
頽波砥柱今誰在  
天下蒼生安適歸

## 留學生及び卒業生

前年度泉義敬師が宗學研究の爲め日蓮宗大學に  
松木本興師が臺學研究の爲天臺宗大學に留學を命